



情報通信技術を活用したバングラデシュ農民所得向上プロジェクトを開始

— 「ICT を活用した BOP 層農民所得向上プロジェクト」が JICA 草の根技術協力事業に採択—

概要

九州大学は、低所得層であるバングラデシュの農民の貧困削減を目指して、情報通信技術（ICT）を活用し、現地の実情とニーズに合わせた農業情報の提供を開始します。

このプロジェクトは、国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業の採択を受けて行うものです。

背景

農業国であるバングラデシュでは、BOP層（Base of the Pyramid：所得ピラミッドの底辺層）農民の所得向上が貧困削減に不可欠となっています。しかし同国政府の農業普及員の人数には限りがあり、農民が必要とする農業情報が十分に伝わっていません。そこで同国農村に普及しているテレセンター（※注1）を拠点に、ICTを活用することによって、多様な農業情報をいつでも提供できる体制を作る必要性が高まっています。

今回、本学では大学院システム情報科学研究院アシル・アハメッド特任准教授と九州大学熱帯農学研究センター緒方一夫教授が中心となった「ICT を活用した BOP 層農民所得向上プロジェクト」が JICA の草の根技術協力事業（※注2）に採択され、平成 22 年 7 月 1 日付けで同センターと業務委託契約を締結し、プロジェクトを開始することになりました。プロジェクトの内容については下記のとおりです。

※注1：テレセンター：インターネットに接続されたパソコンと周辺機器、携帯電話がある情報通信拠点。

※注2：草の根技術協力事業：日本の NGO、大学、地方自治体、公益法人などの団体による、開発途上国を対象とした協力活動を、JICA が政府開発援助（ODA）の一環として、促進し助長することを目的に実施する事業。

内容

バングラデシュにおいて、農村部で運用されているテレセンターを通じて、現地農民の実情とニーズに適合した有用な農業情報を配信することにより、高品質な農産物の生産を促進し、農民の所得向上を図ります。また農民からの農業技術についての相談も受け付け、相談内容はデータベースに管理し、他地域でも応用できるよう「BOP 層最適化農業情報システム」を構築します。

※実施期間 平成 22 年 7 月～平成 25 年 6 月（3 年間）

効果

本プロジェクトを実施することにより、以下のような効果が期待されます。

1. 農民の適正かつ有用な農業情報の収集
2. BOP 層の農民に最適な農業情報システムの確立
3. 女性グループの換金農産物生産への参加促進
4. 農産物の新たなマーケット・チャンネルの開拓

今後の展開

本プロジェクトでは、テレセンターを拠点とした農村の農業振興支援、その結果としての農村住民の生活向上を、事業対象地で自立的な動きとして確立していくとともに、他の地域にも普及させていくことを目標とします。

【お問い合わせ】

大学院システム情報科学研究院 特任准教授 アシル・アハメッド

電話：092-802-3667

FAX：092-802-3850

Mail：igpf-info@gramweb.net

九州大学は
2011年に
100周年を
迎えます

